

平成 26 年 6 月 12 日現在

機関番号：10101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22730283

研究課題名(和文)クリエイティブ産業におけるプロジェクト組織の価値創出メカニズム

研究課題名(英文)Value Creation Mechanism of Project-based Organizations in Creative Industry

研究代表者

宇田 忠司 (UDA, Tadashi)

北海道大学・経済学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：80431378

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果として、以下の二点が挙げられる。まず、クリエイティブ産業の構造と主体の実践のダイナミックな関係を経験的に明らかにしたことである。また、協同やプロジェクトを通じた価値創出について検討するさいに、きわめて適していると考えられるコワーキングという現象に着目し、先駆的に理論的基盤の整備を行ったことである。

研究成果の概要(英文)：The results of this research are summarized as follows. Firstly, dynamic relationships between structures in creative industry and practices of actors are empirically clarified. Secondly, pioneering theoretical basis on coworking which is extremely suitable for considering value creation made through collaborations and projects is developed.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・経営学

キーワード：クリエイティブ産業 フリーランス クリエイター 実践 産業構造 制度 言説 コワーキング

1. 研究開始当初の背景

クリエイティブ産業（広く文化や芸術、娯楽に関連する財やサービスを提供する産業を指す。コンテンツ産業と同一視される場合も見られるが、近年では価値の創造という点がより重要視され、クリエイティブ産業という呼称が有力になりつつある。）を中心に散見されるプロジェクト組織の活動を捉えようとする研究は、90年代後半頃から徐々に蓄積され始めてきた。

しかしながら、そうした既存研究は以下のような限界を内包しており、これを乗り越えようとする問題意識が本研究の着想に至った。

第一に、欧米での研究蓄積に比して、我が国のクリエイティブ産業におけるプロジェクト組織の価値創出活動を捉える試みは十分になされていない。2000年代以降、クリエイティビティがグローバル競争の成否に大きな影響を及ぼすことが指摘され、我が国もコンテンツあるいはクリエイティブ産業の振興を国家的な優先課題として位置づけているが、その実態及び問題点について詳細に論じた研究は依然として乏しい。

第二に、プロジェクト組織そのものの編制やマネジメントに焦点化する余り、組織に影響を及ぼすクリエイティブ産業の構造が看過される傾向にある。プロジェクト組織は、特定の組織の境界に囚われない多様な人材から構成される時限的でダイナミックな組織である。したがって、同組織はクローズドな階層型組織以上に、産業構造からの影響を受けると考えられるが、先端的な研究でさえ、この点について十分検討されていない。ここでいう構造は、産業内の各アクター（クライアントやエージェント、クリエイターなど）の相互関係を通じて形成されるため、多様な主体に基づく視点からプロジェクト組織の活動に迫る必要がある。

第三に、第二の限界とは逆に、プロジェクト組織の活動が既存の構造をどのように再編成していくかという視点が看過されがちである。あるプロジェクト組織は、一方的かつ同型的に産業構造から影響を受けるわけではなく、その中で戦略的に価値創出に取り組み、その活動及び結果が既存の構造の再編に結びつきうることに注意しなければならない。第二で指摘した構造の視点と第三で指摘した活動（組織への参加メンバーの行為の集合体）の視点という双方を視野に納めることで、プロジェクトという協同を通じた価値創出メカニズムにより鋭く迫ることが可能になる。

2. 研究の目的

本研究の目的は、クリエイティブ産業にお

けるプロジェクト組織の価値創出メカニズムを解明することであった。より具体的には、(1)クリエイティブ産業の特性（クリエイティブ産業はどのような構造的特性を有しているのか）、(2)プロジェクト組織の実態（プロジェクト組織はどのように編制され、どのような活動を通じて価値を創出しているのか）を解明した上で、(3)クリエイティブ産業におけるプロジェクト組織の価値創出メカニズム（クリエイティブ産業におけるプロジェクト組織が、価値を創出するメカニズムとはどのようなものなのか、またそれはいかにして構築されるのか）という課題に取り組んだ。

3. 研究の方法

本研究は、4年という交付期間内に上記の課題について以下のかたちで明らかにしていこうとした。

第一に、クリエイティブ産業及びプロジェクト組織をめぐる既存研究の整理検討を通じて、より綿密に問題・限界を明らかにし、精緻な理論的枠組みを構築することである。

第二に、プロジェクト組織の編制やマネジメントといった全般的な活動や、関連する各アクターの意図及び行為、アクター間の相互関係を通じて構築される産業構造に関する詳細な調査研究を通じて、価値が創出される場の実態を明らかにすることである。

第三に、上記を踏まえて、クリエイティブ産業におけるプロジェクト組織のダイナミックな価値創出メカニズムについて考察することである。

ここで各アクターとは、クリエイター、クライアント（発注企業/者）、エージェント（代理人）、インキュベーター（育成支援者）、行政、教育機関（専門学校や大学等）を想定している。

なお、具体的な調査手法については、インテンシブな聞き取り調査を主たるものとして位置づけ、併せて、ライフストーリーの編集や、参与観察といった定性的手法が用いられた。

4. 研究成果

本研究の成果として、大きく以下の二点が挙げられる。

第一に、クリエイティブ産業の構造/制度と主体の実践のダイナミックな関係を経験的に明らかにしたことである。

具体的には、まず、「フリーランス・クリエイターのキャリア戦略とコンテンツ産業の構造」において、フリーランス・クリエイターは、大手広告会社（エージェント）など一握りの大企業を基点とする垂直分業体制のもとで、ある程度固定・継続的なメンバーから成るプロジェクトを基盤に価値創出を

図っている傾向が見出された。その上で、このような実態のメカニズムについて、フリーランスやクライアントが参照する制度/構造(たとえば、フリーランスの場合、クリエイター間の競争の激化を招くITの進化や事業拡大を困難にする労働集約性の高さ、クライアントの場合、フリーランスとの直接取引に際して負担するリスクやコストなど)と彼らの実践(フリーランスの場合、案件の安定的確保や制作業務への専念のための下請けという立場の選択、クライアントの場合、上記コストを回避するための間接取引など)のダイナミックな相互関係という観点から明らかにした。

また、「言説間での(再)接続と切断としての制度化:フリーランス研究における騎士・従僕・英雄言説」において、言説分析という先端的な手法を用いて、クリエイティブ産業における制度の生成・維持・変化の過程(制度化)を明らかにした。具体的には、フリーランスという主体による「騎士言説(自由や自律を強調するテキストの生産・伝播・関連づけを通じて生成された言説)」、「従僕言説(社会的弱者や従属者を想起させるテキストの生産・伝播・関連づけにより生成された言説)」、「英雄言説(自由と創造に関するテキストの生産・伝播・関連づけを通じて生成された言説)」といった言説への(再)接続と切断の過程として制度化を捉えることができるという知見を提示した。

これらの成果は、関連する既存研究の多くが市場の推移、構造特性やその変容等といったマクロな視点に偏るかたちで論じている中、実際にコンテンツの制作に関わるアクターの視点から価値の創出に関わる実践と産業構造/制度に関する知見を提示しており、一定の理論的・実践的示唆をもたらしたといえる。とりわけ、言説分析という有用性が指摘されるものの誤用も散見される手法を適切に用いて経験的研究を実践した意義は大きいと考えられる。

第二に、協同やプロジェクトを通じた価値創出について検討するさいに、きわめて適していると考えられるコワーキングという現象に着目し、先駆的に理論的基盤の整備を行ったことである。

具体的には、「コワーキングの概念規定と理論的展望」と"What is Coworking?: A Theoretical Study of the Concept of Coworking"において、クリエイティブやITの世界を中心に世界的に台頭しつつある「コワーキング(coworking:働く個人がある場集い、コミュニケーションを通じて情報や知恵を共有し、状況に応じて協同しながら価値を創出していく働き方)をめぐる議論を整理・検討し、今後の理論的展望について論じた。その結果、コワーキングという現象は、コワーカー(coworker)という働く個人とコワー

キング・スペース(coworking space)という働く場の二つの概念を用いることで、より具体的かつ体系的に捉えられることを明らかにした。また、関連する既存の概念(たとえば、コワーカーの場合、フリーランスや小規模事業者、組織人)との比較検討を通じて、それぞれの理論的位置づけを示した。

近年、欧米を中心にわが国においても急速に浸透しつつあるコワーキングについて概念的に検討したうえで、理論的発展の方向性を提示するという試みは、世界的にほとんど見当たらず、きわめて先駆的である。現時点で、コワーキングの主たる実践者は、クリエイティブやITの世界におけるフリーランスや小規模事業者が多く、彼らの交流・協同を通じて創造的・革新的なプロジェクトが世界各国で活発に展開されている。そのため、これらの研究成果は、クリエイティブ産業やプロジェクト組織、主体の実践などについて大きな理論的・実践的貢献をもたらしたといえる。加えて、クリエイティブ産業にとどまらず、より広く働く個人や働く場に関する研究や実践に対して有益な示唆をもたらさう。

以上のように、4年間に及ぶ本研究の成果は、経営学や社会科学の先端的領域の詳細な整理検討及び、それを踏まえた経験的研究の蓄積という理論的意義と、国家レベルの戦略的課題の一つであるクリエイティブ産業を担う人材の輩出・育成や価値を創出するための組織や場の整備、産業振興のための制度設計等への示唆という実践的意義を有すると考えられる。

なお、現時点で本研究の成果の全てを具体的なアウトプットとして提示できていないため、引き続き研究成果の公表に努めていく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

宇田忠司・高橋勅徳(2014)「言説間での(再)接続と切断としての制度化:フリーランス研究における騎士・従僕・英雄言説」『日本情報経営学会誌』第35巻,6月公刊予定。(査読有り)

UDA, Tadashi (2013) "What is Coworking?: A Theoretical Study of the Concept of Coworking," *Graduate School of Economics and Business Administration, Hokkaido University, Discussion Paper Series A*, 265, 1-15. (査読無し)

(<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/53982/1/DPA265.pdf>)

宇田忠司(2013)「コワーキングの概念

規定と理論的展望』『経済学研究』63(1), 115-125. (査読無し)
([http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/52844/1/ES_63\(1\)_115.pdf](http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/52844/1/ES_63(1)_115.pdf))
宇田忠司・高橋勅徳(2012)「言説への(再)接続と解除としての制度化: フリーランス言説における騎士・従僕・英雄」『首都大学東京大学院社会科学研究所経営学専攻リサーチペーパーシリーズ』No.103, 1-13. (査読無し)

研究者番号: 80431378

(2)研究分担者
なし

()

研究者番号:

(3)連携研究者

高橋 勅徳 (TAKAHASHI, Misanori)
首都大学東京・大学院社会科学研究所・准教授
研究者番号: 70352482

〔学会発表〕(計1件)

宇田忠司・高橋勅徳(2011)「権力関係の解除と再接続のための言説分析: フリーランス言説における騎士・従僕・英雄」日本情報経営学会第62回全国大会, 2011年7月3日, 神戸大学.

(2012)

〔図書〕(計1件)

宇田忠司(2013)「フリーランス・クリエイターのキャリア戦略とコンテンツ産業の構造」金井壽宏・鈴木竜太(編著)『日本のキャリア: 専門技能とキャリア・デザイン』全288頁(167-193)白桃書房.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等: 北海道大学コワーキング研究コミュニティ(北海道大学・平本健太, 阿部智和とともに開設し, 研究成果を発信)
(<https://ja-jp.facebook.com/rcoc.jp>)

6. 研究組織

(1)研究代表者

宇田 忠司 (UDA, Tadashi)
北海道大学・大学院経済学研究科・准教授